

本信寫送付先

北平	奉天	天津	青島	濟南
漢口	南京	福州	廣東	廈門

8 1.1.1.0-7 1696

0358

公信第九九一號 第二號

昭和六年八月十四日

在上海


總領事 村井倉

外務大臣男爵 幣原喜重郎 殿

排日貨運動ニ關スル上海日本商工會議所ヨリノ
請願書送付ノ件

八月十四日上海日本商工會議所會頭米里紋吉來館別添排日貨運動ニ
關スル貴大臣宛請願書並ニ商工、陸軍、海軍ノ各大臣宛同寫ノ轉達
方申出アリタルニ付右茲ニ送付ス可然御取計相煩度

別册添付



8 1.1.1.0-7 1695

0357

排日貨運動ニ關シ請願ノ件

七月初旬突發セル萬寶山事件ニ件ヒ朝鮮事件勃發ノ報一度當地ニ傳ハルヤ、市商會ヲ中心トスル一部排日屋ハ好機逸スベカラズト爲シ、同月十三日早クモ上海各界反日援僑會ヲ組織シ對日永久經濟絕交ヲ高唱、同十七日排日貨方案大綱ヲ定メ、二十三日遭難者ノ追悼大會ヲ開催大ニ排日ノ氣勢ヲ揚ゲ、二十五日日貨登記規則ヲ公表シ、二十九日更ニ日貨處置辦法ヲ決議シ何レモ堂々新聞紙ニ廣告シ、浦東、閩北、南市等ニ検査所ヲ設ケ十七日前後ヨリ擅ニ日貨ノ検査抑留沒收等ヲ行ヒ、是等沒收品ヲ處分スル外、非法ナル登記料(原價ノ一割)ヲ強要シ白晝強盜ニ均シキ不法行爲ヲ敢行シテ憚ラズ、日ヲ經ルニ從ヒ一層其組織ヲ完備シ前途暗澹更ニ惡化ノ虞アリ斯ノ如キ通商條約ノ精神ヲ破壞シ、國際貿易ヲ斷絶セントスル反日團ノ暴行ニ對シ我官憲ヨリ屢々嚴重ナル抗議ヲ繰返シツ、アルモ、國民政府ハ單ニ取締令ヲ發布セ

S 1.1.1.0-7

1697

0359

リト唱フルノミニテ何等具體的命令ヲ公布セズ、且ツ毫モ之ガ取締ノ實ヲ示サズ、其後類々トシテ別表記載ノ如ク支那商民所有ノ日貨ハ勿論日商所有ノ貨物ニ對シテモ抑留沒收等ノ事件續發シツ、アル實情ニ徴シ支那官憲ハ寧ろ陰ニ排日行爲ヲ默認支持スルモノニアラズヤト認メラル、カ、ル私設團體ノ橫暴非行ハ近代法治國下ニ於テ斷ジテ許容スベカラザル所ニシテ、殊ニ治外法權即時撤廢ヲ強要セル現時ノ國民政府ガ之ヲ庇援スルガ如キ態度ヲ持セルハ甚シキ無盾非道ト云ハサルベカラズ願フニ國際貿易ヲ擁護スベキ當地市商會ガ却ツテ排日運動ノ中心トナリ反日團體ヲ組織シ、我國ニ對シ敢テ宣戰布告ニモ等シキ永久經濟斷交ヲ叫ビ、日貨抑留沒收等ノ不法行爲ヲ敢行シ故ラニ兩國々民ノ感情ヲ激發シ遂ニハ國交上重大ナル結果ヲ招致セントスルガ如キ現情ニ對シ、我國ガ既往ノ如ク隱忍ノ態度ヲ以テ之ニ臨ムニ於テハ、近來著シク狂暴化セル支那ノ排外運動ヲ益々助長セシメ、延イテハ帝國國威ヲ失墜セシムルニ至ル虞レアリ、宜シク此機會ニ於テ支那側ノ非違ヲ糾彈シ、支那官憲ヲシテ速カニ斷乎タル取締ヲ講ジ、再ビ同様事件ヲ發生セシメザル様、拔本塞源

S 1.1.1.0-7

1698

0360

ノ方策確立ノ必要アリト信ジ、此際解決案トシテ左記事項ニツキ支那官憲ニ嚴重交涉セラレンコトヲ切望ス

一、支那官憲ヲシテ具體的排日取締令ヲ發布シ、之ヲ新聞紙ニ公告セシムルコト

二、反日諸團體ヲ即時解散シ、一切ノ排日行爲ヲ嚴禁セシムルコト

三、排日行爲ニ因リ生ジタル一切ノ結果ニ對シ、支那官憲ヲシテ責任ヲ負ハシメ且ツ其損害ヲ賠償セシムルコト

四、其所有者ノ中外人タルヲ問ハズ、日貨ノ検査抑留沒收等不法行爲ノ犯人ハ即時嚴重處罰セシムルコト

五、將來同様事件ヲ發生セシメザル様具體的取極ヲナスコト

右當會議所役員會ノ決議ニ依リ此段及請願候也

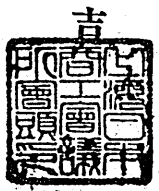
昭和六年八月十一日

S 1.1.1.0-7

1699

0361

上海日本商工會議所
會頭 米里紋



外務大臣男爵 幣原喜重郎殿

0362

1700

S. 1.1.1.0-7

0363

1701

S. 1.1.1.0-7

事件發生日	被害者	被害地點	貨物種類	數量	金額	摘要
昭和六年七月十七日	第一公司廠	南橋市	石鹼	六箱	一四七元	未返還
同月二十三日	日比野洋行	同上	陶器	二箱	一六九元	同上
同月二十四日	日本棉花會社	浦東	綿糸	二〇俵	五、二〇〇兩	七月三十日返還
同月二十八日	同	北京路	同上	六五俵	一、三三〇兩	同上
同月二十九日	同	楊樹浦	同上	一六三俵	三九、五〇〇兩	同上
同	寶成玻璃廠	開家路北	硝子瓶	二、〇二二本	一三〇元	未返還
同月三十日	上海製造絹糸會社	西四極司	絹紡管糸	二四〇斤	八〇〇兩	即日返還
同月三十一日	日星洋行	蘇州河上	糸屑	一六八俵	三、〇〇〇兩	八月一日返還
八月四日	伊藤洋行	浦東	綿糸	二三五俵	四一、四七五兩	未返還

附屬書類

甲號 反日會日本品抑留事故調書 (昭和六年八月十一日現在)

一、邦商所有貨物被害事故

同月四日	紙	六令		
同月五日	洋線	四俵	皮仁	一件
	大正琴	二件	綿布	一箱
	懷中電燈	一箱		魔法瓶
	綿布	二件		タオル
同月六日	松板	十捆		二箱

右價格概算五十万兩

乙號 上海反日援僑會常務執行委員(七名)氏名

- 主席 虞洽卿 (前上海總商會長現上海工部局市參事會)
- 總務科主任 王曉穎 (上海市商會執行委員主席)
- 保管科主任 王延松 (上海市黨務指導委員)
- 檢察科主任 后大椿 (中央黨部委員)
- 宣傳科主任 陶百川 (上海市黨部委員教育會代表)
- 登記科主任 陳錫銳 (上海工部局交通特別委員)
- 調查科主任 陸京士 (工會代表)

S 1.1.1.0-7

1704

0366

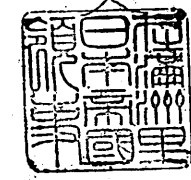


機密公第三一三號

昭和六年八月十四日

在滿洲里

領事館事務代理 豊原 幸 夫



外務大臣野澤重郎殿

鮮也事件、関スル排日傳單、出現、関スル件
朝鮮事件、對シ當方面、於テ何等具體的之反
響ナク極メテ平穩ナル次第ハ容月二十三日附機密
公第三八五號及本月十一日附機密公第三〇七號拙信ヲ

1710

昭和六年八月廿二日接受



0367

以テ及報告置タル處、今般當地方、各要所、
別紙掲載ノ如キ中國國民黨中央執行委員會
宣傳部ノ印刷、係ル「朝鮮排華慘案及万宝山
事件」為メ全玉民衆、告クルノ書ト題スル排日傳
單貼布セラレ辰ルヲ弁見シタルニ付之レカ出所、付
由查スル處、依レハ本月十日當地方、政籌備處
、於テ朝鮮事件、関シ市民有志者大會ヲ開
催シ鮮也被害華僑、對スル救済基金募集方等
、付種々協議スルト共ニ際テヨリ黑龍江有党部
ヨリ當地方政公所、送附シ来レル前記排日傳單
ヲ布各處、貼布シ輿論ヲ喚起スルトヲ決議シタル

1711

結果、因ル趣ナルカ本件、関シテモ當地官民共依然
冷靜ヲ失ハス友シタル反響ナキモノ、如シ
右報告ス

本信寫送附先

在中華民公使、北平大使、參事官
奉天、哈爾濱、齊齊哈爾各領事官

1712

0368

REEL No. A-0059

0368

アジア歴史資料センター

朝鮮排華慘案及万寶山事件ノ為メ
全國民衆ニ告クルノ書

日本帝國主義ノ蹶起ハ輓近十年ノコトニ過キス當
時世界市場奪取活動ノ時ニ當リ一西方帝國主義
ノ勢力ハ既ニ極東ニ充溢シ許多肥天ノ土地ハ彼ハ
ノ為メ先鞭ヲ付ケラレ居タルヲ以テ日本帝國主義ハ
ヒナク北進ノ大陸政策ヲ樹立スルニ至レリ

前掲大陸政策トハ朝鮮ヲ以テ根據地トシ專ラ
我國ノ滿蒙侵略ヲ以テ其初步ノ目的トスルモノナレハ
滿蒙積極政策トモ稱セラレ、處此種政策ハ六十年
來ノ日本政治ヲ支配シ最近ニ於テハ益々尖鋭化シ

自熱化セルカ其内容ハ

- (一) 滿蒙ノ鐵道網ヲ完成シ以テ其經濟的勢力ノ擴張
ニ依リ其軍事的運輸ニ便スルコト
- (二) 滿蒙ニ對スル大規模ノ移民ヲ実行シ朝鮮滿蒙
ヲ打ケテ一丸トナシ然後長泉南下ヲ策スルコト
- (三) 中國ノ統一ヲ破壞シ内亂ヲ助長シ以テ漁夫ノ利
ヲ占ムルコト

等ニ在リ而モ上記ノ政策中特ニ内亂ノ助長ト統
一ノ破壞ヲ以テ其掠奪的基本原則トナシ居レリ
日本帝國主義カ過去ニ於テ軍閥ト句結シ二十
一分條、西原借款等ヲ締結セル其最モ顯著ナル

陰謀ノ表現ナリ又新興國民革命運動、對シテモ特ニ
心痛シ之カ阻害、日夜心ヲクダキ遂ニ一九二六年我革命
軍力上海南京ニ東下セル際ニモ南京事件、鶴口
シテ極力之カ阻害、務メ一九二八年第二次ノ北伐ノ際
ニモ山東ニ出兵シテ濟南事件ノ發生ヲ見又最近
我國カ全力ヲ擧ケテ共匪討伐中、乘シ土地耕作
ノ強行、固リ華僑ヲ屠殺セリ蓋シ日帝國主義者
ハ我國革命ノ成劫ト社會ノ安定ヲ見ルニ於テハ將來ノ
侵略ノ策ノ施シ様ナキヲ慮レ此ノ擧、出テタル趣ナリ
今次ノ鮮内華僑屠殺ノ慘劇ハ仁川平壤ニ勃發後
鮮内全土ニ蔓延セルカ曩ニ七月二日仁川華僑ハ鮮人
襲來ノ風説ヲ耳ニシ今所華僑高會ヨリ我領事ヲ請

1715

0370

日本側ニ警告ヲ與ヘ其取締ヲ促シタルモ日本側ハ漫然
之ヲ放任セル結果深更鮮人ハ果シテ群衆数千ニ及
ヒ各自武器ヲ携帶シ擾乱ヲ肆ニシ華高ヲ襲撃手
セリ我僑高ハ何等警備ナク組織ナキ為ニ其蹂躪ニ委
セラレ家屋ノ破壊、貨物ノ掠奪、華高ノ改殺等至ラサル
本處事件勃發當時警察ハ袖手傍觀何等ノ制
止ヲ加ヘズ或ハ変装シテ之ニ参加シ且交通ヲ遮断シテ
消息ヲ断チ我無辜ノ僑胞ヲシテ束手死ニ至ラシメ
更ニ狙撃後燒殺スル等其慘禍前代未聞タリ嗣
テ鮮内各地ニモ同様ノ暴行繰返サレ我僑胞ヲシテ
毆斃セサルモハ燒殺セラレ窮余ノ極投水セサレハ彼等

1716

ノ虜トナリ現在在外者二百余名、達ニ負傷者數千、
及ヘルヲ猶ホ鮮内惨殺事件ハ停止スル所ナク且最近
ノ消息ニ依レハ本件ハ日本内地ノ神戸大坂各地ニモ被
及セル趣ホレハ我華僑ノ將來ニ於ケル被害程度ハ如何
ナル程度ニ及フヤ計リ知ルヘカラサルナリ

日帝ハ主義者ハ本件ノ擴大ニ依リ極力辭ヲ設ケテ
掩飾ニ責任ノ轉嫁ヲ計リ其使嗾ニ依ル組織的
暴行的大屠殺ナルニ拘ラス類リニ之ヲ打消シ本件ハ
万寶山事件ニ因ル中國官民ノ鮮農壓迫ニ對スル
報復ナリト稱シ我國政府ノ抗議的回應ニ對シテモ
悍然國際法上ノ賠償責任ヲ負ハスト豪語スル等

1717

0371

此種不法ノ反駁ハ帝ハ主義ノ常套手段ニシテ一見天
下ノ耳目ヲ掩ハシムルモノアリ而モ万寶山事件ハ忽チ鮮
人カ我國官憲ノ允許ヲ得スシテ擅ニ民地ヲ侵シ水道ヲ
掘リテ農田ヲ破壊シ河道ヲ阻塞シタル結果我國農
民カ平堰水道填埋ノ舉ニ出テタルモノナルカ同地日警ハ遂
ニ斧砲示威ヲ行ヒ墾塚ヲ掘リテ宿營シ格ニ大敵ニ
臨ムカ如ク鮮人ヲ指揮シ水田ノ耕作ヲ強行セルモノニ
シテ事實全ク日人ノ我國農民壓迫ニ起因セルモノ
ナル處却テ事實ヲ顛倒シ中國官民ノ鮮農壓迫
ニ起因スルモノナリトノ暴言ヲ發スルニ至レリ是ハ一ハ鮮人
ヲ煽動シテ我國侵略ノ先鋒ニ當ラシムルト共ニ他ハ今次

1718

「討匪的屠殺事件」ヲ掩飾シテ事實上ノ一切ノ責任ヲ
免レントスルニ在リ

原素鮮人ハ日帝國主義ノ鉄蹄下ニ呻吟スルコト久シク
武力無キヲ以テ日本軍警ヲ畏ルコト猛虎ノ對スルニ
異ナラス苟モ彈壓ヲ加ヘラル、於テハ千萬ノ鮮人ト雖
モ事ヲ滋クスルコト能ハス且平時日警ノ鮮人ニ對スル
監視ハ極メテ嚴重ニシテ聚衆集合ヲ許ササル處今
次ノ事變ハ一瞬ノ間、數千人ヲ糾合シ煌々タル武器
ヲヒラメカシ放火破壊掠奪ヲ敢行シタル以上明カニ
日帝國主義ノ使喚ニ係リ組織的討匪的屠殺
ナルコトハ事實ニシテ決シテ偶然ニ發生シタル事變ニ

5780

非サルナリ

帝主義者ハ原素弱小民族ノ生命ヲ輕視セルヲ以テ
新興ノ日本帝國主義ハ一層其凶暴ノ度ヲ加ヘ口ニ日
支親善、共存共栄ヲ叫ブモ事實、於テハ掠奪殘
殺ノ暴行ヲ敢テセサルナク長沙ノ「六」上海ノ「五」南京ノ
奔砲、濟南ノ屠殺、……等何レモ日帝國主義ノ
殘殺ノ係ル劍痕ナラサルハナシ料ラサリキ國內ノ鮮血
未タ乾カサルニ僑胞ノ慘殺發生ス斯クテハ將來ノ慘
劇ハ絶ヘサルヘク今ニシテ敢然之ニ對抗セサレハ亡國滅
種ノ禍正ニ目睫ニ迫ルト云フヘシ

現在我國滿蒙ノ状況ハ事實危急ニ迫ラレ居リ彼等ノ

軍警ハ到ル處ニ配置セラレ彼等ノ鐵路ハ南滿ヲ貫通シ
彼等ノ軍艦ハ自由ニ出入シ以テ我等ハ時々刻々其威
嚇ヲ度ケ居レルカ是ハ滿蒙ノ重要問題タルノミナラス中
民族ノ生死存亡ノ關鍵ナルヲ以テ我ハ此ノ緊急ノ時
機ニ於テ全國民一致シテ左記事項ヲ認識シ以テ寧恥
救亡ノ目的達成ニカムヘシ

一、今次ノ朝鮮慘案ハ完全ニ日本帝國主義ノ便
儀ニ俾リ組織的對衝の大屠殺ニシテ更ニ滿蒙積
極政策ヲ一歩進メタル表現ナレハ吾人ハ同胞ノ覺醒
ヲ促シ注意ヲ喚起シテ之ヲ輕々ニ看過セシムヘカラ
ス

1721

0373

二、現在世界ニ於テ最モ偉大ニシテ肥天ナル市場ハ中
國ナルヲ以テ日帝國主義ハ中國市場独占ノ對衝ヲ
進メ然ル後其經濟的力量ヲ以テ我民族ノ滅亡ヲ
計ラシカ為メ滿蒙政策ノ實現ニ急ナル所以ナレ
ハ我等ノ唯一有効ナル對策ハ對日市場ヲ封鎖シ
貿易總交ヲ實行シテ經濟上ノ活動能力ヲ失ハ
シ去ルニ在リ

1722

三、國家ノ統一、社会ノ安定ハ對外的基本要素ナレハ
我全土民衆ハ一致シテ政府ニ信任シ中央ヲ擁護復
シ以テ對外的歩調ヲ整フルト共ニ奮勵ニ當リ互ニ相
勉メテ急驟的行動ヲ戒メ以テ他人ノ口實ヲ與ヘズ

様スヘシ但シ正義ノアル處公理ノ昭示スル處ニハ静カ
ニ雪恥ノ決心ヲ堅メ政府ヲ督促シテ革命外矣ノ
實現ヲ期スヘシ

四、共匪勦滅反動份子ノ肅清ハ國基ヲ鞏固ニスル
重要工作ナレハ我全土民衆ハ一致シテ政府ト協助
シテ速カニ匪逆肅清ノ効ヲ收メ以テ吾家ノ凶憂ヲ
絶ク一致奮起シテ本党領導下ニ於テ雪恥救亡
ノ努力ニ盡シ主義ヲ打倒ノ邁進スヘシ

1723

0374



寫送先

大臣 電信課長 亞細亞 歐米 通商 條約 情報 人文 人事 文書 會計

次官 村井

11.1.1.0-7

外務省

昭和6 一〇九八二 暗 上海 十五日 後發 亞、通
 幣原外務大臣 村井總領事
 第四〇八號

當地三菱支店保險係ノ一邦人カ先日來反日ノ爲ニ抑留セラレ居ル
 渡リ貨物ニ對スル保險業務ニ關シ現狀視察ノ爲十三日午後一時頃浦東ニ
 渡リ貨物保管倉庫ノ近邊ニ赴キ見取圖ヲ取り居リタルニ同所ハ前數
 回排貨事件ノ關係者ノ本據ニテ且十二日夜事件直後ナリシ關係上數
 名ノ反日會員ト思シキ徒衆ノ爲ニ貨物奪還ニ來レルモノト見誤ラレ
 テ捕ヘラレ目隠ノ上反日會本部ニ連行セラレ種々訊問セラレタルカ
 本人カ能ク隱忍シ居リタル爲事情判明シ午後四時半頃ニ至リ検査所

6 1.1.1.0-7

1725

0376

我が抗議を尻目に
 日貨排斥益々悪化
 跳梁する上海の反日

支那商被害
 支那商被害
 支那商被害

日本側被害
 日本側被害
 日本側被害

7.20 上海海關...
 日四十月八年六和昭
 (二)

1724

0375

寫送先

會文人情條通歐亞
計書事化報約商米細亞

大臣
次官

電信課長

A.I.I.O. 20-2

昭和6 一〇九八二 暗 上海 十五日發 亞、通
幣原外務大臣 本省 八月十五日後着

第四〇八號

當地三菱支店保險係ノ一邦人カ先日來反日會ノ爲ニ抑留セラレ居ル
貨物ニ對スル保險業務ニ關シ現狀視察ノ爲十三日午後一時頃浦東ニ
渡リ貨物保管倉庫ノ近邊ニ赴キ見取圖ヲ取り居リタルニ同所ハ前數
回排貨事件ノ關係者ノ本據ニテ且十二日夜事件直後ナリシ關係上數
名ノ反日會員ト思シキ徒衆ノ爲ニ貨物奪還ニ來レルモノト見誤ラレ
テ捕ヘラレ目隠ノ上反日會本部ニ進行セラレ種々訊問セラレタルカ
本人カ能ク隱忍シ居リタル爲事情判明シ午後四時半頃ニ至リ検査所

村井總領事

外務省

8 1.1.1.0-7

1725

0376

日本側報告

支那商被害

我が抗議を尻目に 日貨排斥益々惡化 跳梁する上海の反日

7.20 何れも何れも 石井 句

日四十月八年大正昭 (二)

新聞 昭和 年 月 日

1724

0375

寫送先

會文人情條通歐亞
計書事化報約商米細亞

大臣
次官

電信課長

1.1.10-20-2

第一五二號

幣原外務大臣

昭和6 一一〇〇四 暗

濟南 本省

十五日 八月十六日後着

亞通

西田總領事

當地反日護僑會ハ去ル十日執監委員會第一次會議ニ於テ反日決議ヲ
爲シタリ既ニ郵報シ置キタル處今般濟南市立民衆讀書閣報處
ハ反日連鎖トシテ日本貨ヲ買ハスニ日本人ニ品物ヲ賣ラスニ日本
人ノ爲ニ仕事ヲセスノ三項ヲ實行スヘク此ノ傳單ヲ受ケタルモノハ
廿四時間内ニ九枚ヲ寫シテ發送スヘシトノ連鎖的宣傳文ヲ密カニ各
所ニ撤布セシ者有リシニ依リ本官十四日韓主席ニ會見ノ際右ノ傳單
ヲ示シテ反日會ノ行動ト共ニ嚴重取締方申入レタルニ韓ハ反日會ノ

外務省

8 1.1.10-7 1727

0378

長ト稱スル者ノ比較的懇懃ナル申開ヲ受ケ釋放セラレ河岸迄人ヲ付
ケ送り還サレタル事件アリタル處三菱支店ニテハ本人ヨリ最初電話
報告ヲ受ケタル際直ニ當館方面ニ届出ツルニ於テハ却テ事ヲ荒立テ
本人ノ爲ニナラスト思ヒタリトノ事ニテ當館ニ報告セス當館トシテ
八十四日午後ニ至リ本件ノ詳細ヲ承知シタル次第ナルカ本人並ニ會
社側ニ於テハ本件カ外部ニ漏レ問題トナルニ於テハ浦東側ニ働ク邦
人現場員ノ爲ニ却テ面白カラサル影響アルヲ慮レ居ルモノノ如ク本
件發表ヲ嫌ヒ居レリ
北平、奉天、天津、青島、濟南、南京、漢口、廣東ニ轉電シ支ヘ轉
報セリ

外務省

8 1.1.10-7 1726

0377

市民大會開催ノ如キハ市長ヲシテ制止シ置キタル次第ナリ傳單ニ付
テハ直ニ市長ヲシテ取締ラシムルキ旨ヲ答ヘ斯ル事ヲ爲スモノハ恐
ラク共產黨分子ナルヘシト話シ居レリ
支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ
支・北平、青島、奉天、天津、漢口、南京ヘ轉電シ芝罘ヘ暗送セリ

外務省

S 1.1.1.0-7 1728

0379

機密第九九四號

昭和六年八月十五日

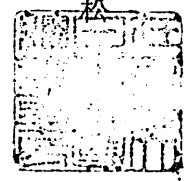
在上海

總領事 村井倉

外務大臣男爵 幣原喜重郎 殿

海軍側ノ排貨防止對策ニ關スル件

排日貨運動ニ對スル一遣艦隊側ノ態度ニ關シ重光公使宛電ノ趣敬
承、右ニ關シテハ海軍省ヨリ一遣司令官ニ訓電アリタル模様ニテ八
月十二日鹽澤司令官ノ意ヲ承ケ柴山陸戰隊指揮官及山縣首席參謀本
官ヲ來訪シ懇談ノ末排日貨運動ニ對スル艦隊側ノ態度トシテ



昭和六年八月廿四日接受 BII

S 1.1.1.0-7 1729

0380

REEL No. A-0059

アジア歴史資料センター

(分類) 1.1.1.0-7

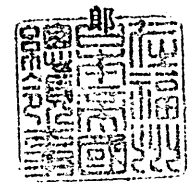
通務
外務大臣

公第二二九號

昭和六年八月十五日

在福州

總領事 田村貞治



福建省會各界反日會組織大綱譯報ノ件

本月十四日ノ當地求是日報ニ「福建省界反日組織大綱」ナルモノ掲載セラレタルカ右ニ據レハ同會ハ當地高級黨部（即チ省黨部）ノ指導及政府ノ監督ヲ受ケ事務所ヲ閩侯縣黨部内ニ置クトアリ全文御參考迄別紙ノ通譯報申進ス

本信寫送附先

在福州日本總領事館

S 1.1.1.0-7 1731

0382

緊急ノ場合ハ別トシ其ノ他ノ場合ニ於テハ總テ領事館ト協議ノ上行動スヘシ但シ目ノ前ニテ（軍艦碇泊地點附近ノ水面若クハ陸戰隊管所附近ニテ）不法行爲行ハルル際救助ヲ乞ハレタルニ拘ラス袖手傍觀スルハ其ノ立場上出來サルニ付斯ル際ニハ出動スヘシトノ趣旨ヲ述ヘタルニ付本官ハ之ヲ諒承シ但シ後者ノ場合ニ於テモ救援隊ノ行動ハ暴行ヲ阻止シ貨物ヲ奪還スルヲ主眼トシ暴行者ヲ逮捕スルコトハ差當リ之ヲ差控ヘラレ度トノ希望ヲ述ヘ置キタリ

本信寫送付先 在華公使 北平 天津 漢口 南京

S 1.1.1.0-7 1730

BII

0381

在華公使、北平參事官、上海、廣東各總領事
南京、厦門、汕頭各領事

在福州日本總領事館

S 1.1.1.0-7 1732

0383

福建省會各界反日組織大綱

第一章 總綱

- 第一條 本會ハ福建省各界反日會ト稱ス
- 第二條 本會ハ侵略ヲ事トシ鮮民ヲ使族シテ僑胞ヲ慘殺セシメ萬鮮慘案ヲ釀成セル日本帝國主義ニ抵抗シ對日經濟絕交ヲ實行シテ政府ノ徹底的交渉ヲ促シ遺憾ノ意表示賠償及在華一切ノ持權ヲ取消サシムルヲ以テ主旨トナス
- 第三條 當地高級黨部ノ指導政府ノ監督ヲ受ケ
- 第四條 本會事務所ハ暫ク閩侯縣黨部ニ設ク
- 第二章 組織及任務
- 第五條 本會ハ各界代表大會ヲ以テ最高權力機關トシ閉會ノ時ハ執

0384

S 1.1.1.0-7 1733

在福州日本總領事館

行委員會ヲ以テ最高權力機關トス

第六條 本會執行委員會ハ省會各界代表大會ヨリ推舉セル十一団体ヲ以テ之ヲ組織ス

第七條 本會執行委員會ハ推舉セラレヨル団体ヨリ夫々責任ヲ負フ代表一名ヲ派シテ之ニ充ツ

第八條 本會執行委員會ハ常務委員三名ヲ互選シ本會日常事務ヲ辦理ス

第九條 執行委員會ニ保管、募捐、設計ノ三委員會及總務、宣傳、調査、檢査、登記等ノ科ヲ分設ス

第十條 保管、募捐、設計ノ三委員會ハ執行委員會ヨリ(註以下脱字ノ爲不明)

在福州日本總領事館

S 1.1.1.0-7 1734 0385

(甲) 設計委員會：專ラ一切ノ反日事宜ノ計劃ヲ司ル

(乙) 募捐委員會：專ラ義捐金又ハ寄附金ヲ募集シ以テ遭難僑胞ヲ救済スル事宜ヲ司ル

(丙) 保管委員會：專ラ本會ノ扣留セル物品ノ事宜ヲ司ル

第十一條 各科ニ正副主任各一名ヲ設ケ執行委員ヨリ互選ノ上擔任ス常務委員ハ一科ノ正副主任ヲ兼ヌルコトヲ得、各科ノ下ニ幹事若干名ヲ設ク

各科ノ職務左ノ如シ

(甲) 總務科：專ラ本會ノ文書、財務及各科ニ屬セサル一切ノ事宜ヲ司ル

(乙) 宣傳科：專ラ本會一切ノ宣傳事宜ヲ司ル

在福州日本總領事館

S 1.1.1.0-7 1735 0386

(丙) 登記科：専ラ商店倉庫ニ現存ノ日貨ヲ登記スル事宜ヲ
 司ル
 (丁) 檢察科：専ラ奸商私運隠匿ノ日貨ヲ検査扣留スル事宜
 ヲ司ル
 (戊) 調査科：専ラ日本ノ販賣藏匿ヲ偵査報告スル事宜ヲ司
 ル
 第十二條 各委員會及各科辦事細則ハ別ニ之ヲ定ム
 第十三條 各界代表大會ノ職務左ノ如シ
 (甲) 本會執行委員ヲ選舉ス
 (乙) 本會ノ豫算決算ヲ審査ス
 (丙) 本會一切ノ進行事宜ヲ監察ス

在福州日本總領事館

0387

S 1.1.1.0-7 1736

(丁) 其ノ他重要事項
 第十四條 執行委員會ノ職權左ノ如シ
 (甲) 外部ニ對シ本會ヲ代表ス
 (乙) 一切ノ會務及議決案ヲ執行ス
 (丙) 各界代表大會ヲ召集ス
 第三章 會務及任期
 第十五條 執行委員會ハ每週二回常務委員會ヲ開催ス若シ必要アル
 時ハ臨時會議ヲ召集スルコトヲ得本會議ハ常務委員ヨリ
 之ヲ召集ス
 第十六條 執行委員ノ任期ハ各界代表大會ニテ之ヲ決定ス
 第四章 經費

在福州日本總領事館

0388

S 1.1.1.0-7 1737



第十七條 本會經費ハ各界ニテ擔任シ不足ノ時ハ外部ヨリ募集スル
コトヲ得

第十八條 本會毎月經費ノ豫、決算ハ之ヲ公布シ並ニ主管機關ニ呈
報シ備案スルヲ要ス

第五章 附 則

第十九條 本組織大綱ニ若シ不備ノ箇所アラハ隨時之ヲ修正スルコ
トヲ得

第二十條 本大綱ハ執行委員會ニテ起草シ各界代表大會ニ提出シテ
之ヲ通過セシム

以 上

在福州日本總領事館

8 1.1.1.0-7 1738

0389

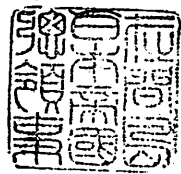
亞細亞局

機密第九四三號

昭和六年八月十五日

在回島

總領事 岡田兼



外務大臣男爵幣原喜重郎殿

在韓華僑慰問團ノ行動ニ關スル件

本件ニ付諜知シタル處ニ依リハ延邊四縣自治促進會ノ主唱ニ依リ組織セラレタル在韓華僑慰問團ハ其ノ目的ニ不純ノ點アリト做シ八月四日延吉市政籌備處長ヨリ解散ヲ命セラレタル旨八月十二日附機密第九三四號ヲ以テ既報ノ處同團體ハ之ニ服從セズ能迄當初ノ目的ヲ實行スルコトニ内

字抄

定シ別紙譯文ノ如キ同團支部組織規約ヲ制定シ支那組織ヲ為スト共ニ別紙ノ如キ領收書ヲ作成シ延邊各地ニ於テ慰問義捐金募集ニ着手シタリト御參考迄ニ報告ス

本信寫送付先

在中公使 北平首席 奉天 吉林 哈爾濱 長春各總領事領事

朝鮮總督 咸北知事 回島派遣員

朝鮮軍 第十九師團西參謀長

朝鮮憲兵隊司令官 羅南憲兵隊長 延吉連絡班

南東廳警務局長

管下一般

S 1.1.1.0-7

1740

S 1.1.1.0-7

1739

0390

在韓華僑慰問團支部規約

第一條 本支部、在韓華僑慰問團支部ト稱ス

第二條 本支部ハ 縣第 區 鎮ニ置ク

第三條 本支部ノ目的ハ今番韓國ニ於テ突發シタル被害華僑ヲ

精神的又ハ物質的ヲ以テ慰問スルコト

第四條 本支部ハ團員ヲ以テ構成シ本團(中央)ノ指導ニ依リ

事業ヲ進行ス

第五條 本支部ハ執行委員七人ヲ以テ組織スルコト

第六條 執行委員會ハ互選ニテ常務ヲ置クコト

第七條 執行委員ハ支部大會ニ於テ選出ス

但補選ハ執行委員會ニ於テ選舉ス

第八條 本支部ノ經費ハ團員ノ團費及其他收入ヲ以テ充ツルコト

第九條 本支部團員ノ入團金ハ拾錢トス

但ハ團金拾錢内七錢ハ中央ニ納付シ參錢ハ支部經費ニ充用スルコト

第十條 本支部ノ會議ハ大會及執行委員會トス

第十一條 中央大會出席代表ハ團員五十名以内ニ一人宛五十名以

上ハ五十名ヲ増スコトニ一人宛選出ス

第十二條 本支部ハ本團(中央)ノ解體ト同時ニ解體ス

第十三條 本規約ニ備ヘサル事項ハ通常慣例又ハ中央ノ指導ニ

依ルコト

第十四條 本規約ハ通過日ヨリ準行ス

S 1.1.1.0-7

1742

S 1.1.1.0-7

1741

0391

第	號	月	日
住	所	年	
	金	額	摘
氏	名	在韓華僑慰問團入團金。豆	
	取	者	印

字第 號

一 金

右在韓華僑慰問團入團金。豆領受

中華民國二十年 月 日

在韓華僑慰問團

印者取

0392

- (2) 本聯合會ハ在滿各地ノ団体ニ指令シテ精神的ニモ經濟的ニモ日本ヲ滿洲ヨリ驅逐スルノ策ヲ講ジ一般民衆ニ對シ排日宣傳ヲ爲スコト
- (3) 吉林省政府ニ本決議事項ヲ報告シ本聯合會ノ行動ヲ默認セシムルコト
- (4) 本會發行ノ機關紙ヲ増刊シ日本ノ滿洲侵略ノ陰謀ヲ指摘シ大排日運動ヲ起スコト
- (5) 本決議ニ依リ速ニ北滿及東滿各地ニ実行委員ヲ派シ精神的ニ行動ヲ執ラシムルコト
- (6) 各地支部組織ノ完成ニ先テ本運動ヲ起シ民族主義ノ普及ト獨立ノ完成ヲ期スルコト

本信寫送付先

在中公使 北平首席 奉天 吉林 哈爾濱各總領事
 長春 女東各領事
 朝鮮總督 咸南 咸北知事 間島派遣員
 朝鮮軍 第十九師團兩參謀長 延吉連絡班
 朝鮮憲兵隊司令官 羅南憲兵隊長
 關東廳警務局長
 管下一般

S 1.1.1.0-7

1746

S 1.1.1.0-7

1745

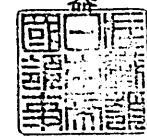
0393

照和六年七月十五日

機密第三三〇號

在 鐵 嶺

領事代理 石塚 邦 器



外務大臣男爵 幣原喜重郎 殿

萬寶山事件ニ關シ中國側策動ノ件

最近遼寧省國民常識促進會ハ各縣分會ニ對シ暑假中休暇中各學校教師及學生ト連絡シ地方村落ニ至リ各種常識促進講演ヲナシ以テ民智ヲ啓クヘントノ通牒ヲ發シタル由ニテ鐵嶺縣常識促進會ニ於テモ各校教員及鐵嶺縣立初級師範中學々生二十餘名ヲ四組ニ分子來ル本月二

在鐵嶺日本領事館

S 1.1.1.0-7 1747

昭和六年七月廿貳日接

0394

分類

十日頃ヨリ各地ニ遊説スヘク縣農會及教育局ニ對シ各村長及各校長該運動援助方請願シ其ノ許諾ヲ受ケタルヲ以テ中華青年會(外交協會)幹部李幹臣等ハ專ラ其ノ計畫中ナルカ其ノ趣旨ハ外交常識普及ヲ眼目トシ今回ノ萬寶山事件及鮮內各地ノ排華問題ヲ宣傳セントスルモノナルカ如シ

又鐵嶺縣初級師範中學校ニ於テハ一週間一回宛生徒ノ演說會ヲ開催シ居リ去ル十日ノ同會ニ於テハ鮮支人衝突事件ニ關シ頗ル過激ナル言動ヲ弄シタル學生アリタル由ナルカ校長其ノ他教師ニ於テ此ノ際具體的排日排鮮行動ニ出テ日鮮人ヲ憤激セシムルトキハ却テ中國側ノ不利益トナルヲ以テ潛行的運動ヲナス様注意シタル趣ナリ
右何等御參考迄報告ス

在鐵嶺日本領事館

S 1.1.1.0-7 1748

名 件

萬寶山及朝鮮事件ニ關スル不穩紛ゼラニ關スル件

昭和六年八月十五日附機密公領第一四二號
宛寫送付
在奉天林總領事

外務大臣野澤啓原 喜重 邸 殿

昭和六年八月十五日
在海龍

分館主任 松浦 興

亞細亞局
機密公第一七二號

(別紙添附)

0396

S 1.1.1.0-7

1750

本信寫送附先 在中華民國代理公使
在北平主席
奉天 吉林 間島 哈爾濱 各總領事
長春 遼陽 牛莊 安東 各領事
朝鮮總督

在鐵嶺日本領事館

S 1.1.1.0-7

1749

0395

眞

機密公領第一四二號

昭和六年八月十五日

在梅龍

分館主任 松浦 興

在奉天

總領事 林久怡 郎殿

萬室山及朝鮮事件ニ関スル不穩繪

ヒラニ関スル件

萬室山及朝鮮事件ノ當管内地方ニ及ボヤル影響ニ関シテハ各月十七日此機密公領第一二七號同日十

在奉天日本總領事館海龍分館

0397

S 1.1.1.0-7 1751

0398

六日附本官大臣花機密公第一四九號以テ及
概報置、及本月十五日当地東門ニ於テ同門廉ニ左記
ノ如キ不穩繪ビテ各一葉ヲ貼付シアルヲ及後見シタルニ依
リ小官ハ直ニ縣長ヲ往訪シ即時談ヒテテ徹去マシムル
ト共ニ其所屬ラレテ城内外各所ヲ嚴査セシメ同一名ハ類
似ビテ有無ヲ取調見テ此種ビテ又ハ謠言等ノ取締ヲ
一層一層行方申入置キタルニ付一應報告ス

記

一萬室山水構近ニ於テ我方警備官カ機密ヲ握
付中國群衆ヲ煽動シ居ル圖ニ左ノ語句ヲ挿入セルモノ
曰警備隊在韓民所掘水溝旁指揮韓民杯火殺
韓人之慘状

在奉天日本總領事館海龍分館

S 1.1.1.0-7 1752

(二)朝鮮某地ニ於テ我警備官監視ノ下ニ鮮人ク一中國人ヲ樹ニ縛シ其ノ眼蒙ニ小カヲ又一人ノ喉部ニ長カヲ突刺シ居ル等中國人ヲ殺傷シツアル圖ニ互ノ語句ヲ挿ハマルモ
倭奴嗾使鮮人慘殺我同胞之血痕
備考

右西圖共新聞紙一頁大ノ三色刷石版画ニシテ相當精巧鮮明トシテ奉天方面ニ印刷セルモノト思フヤラル尚原圖ハ大破マル為リ添送不能

本信寫送付先
外務大臣 吉村、長春、鉄嶺、安東、通化、柳房、各公館長、
關東廳朝鮮總督府各官署事務長、

在奉天日本總領事館海龍分館

大正北區之區二丁目
江ノ川ルインケ六階
在華日本紡績同業會大阪支部

拜啓今般朝鮮事件ニ端ヲ發シテ起リタル支那各地ニ於ケル日貨排斥問題ニ就イテハ種々情報御内示ニ預リ候段奉謝上候措テ本件ニ就キ本日當會上海本部ヨリ同封別紙ノ通り情報ニ接シ候處右ニ依レバ彼地ノ情勢ハ依然トシテ輕視スベカラザルモノ有之様被存深ク憂慮罷在候次第ニ御座候右排日貨取締方ニ就テハ申上ル迄モナク既ニ嚴重御抗議被成下其他機宜ノ御措置御執リ被下居候事トハ奉拜察候得共何卒此際一層嚴重御交渉被成下速ニ無法ナル同運動ヲ終熄セシムル様御配慮ノ程伏シテ悃願ノ至リニ有之此段謹テ及陳情候

昭和六年八月十五日

在華日本紡績同業會
委員長 武居 綾



外務省亞細亞局長
正 之 殿

6 1.1.1.0-7 1754

0400

6 1.1.1.0-7 1753

0399

電信課長

大臣

次官

亞細亞 歐米 通商 條約 情報 人文 文書 會計

寫送先

昭和6 一一〇一四 暗

上海 本省

十六日後發 八月十六日後着

亞、通

幣原外務大臣

第四〇九號

當地三井洋行カ輸入シ支那商ニ賣渡シタル「アメリカ」産小麦二百九十袋ヲ十五日午前十一時頃浦東側ニ於テ「ライター」ヨリ舢舨ニ移シタル際反日會ノ爲抑留セラレタル旨届出アリ最初三井ノ貨物ノ如ク報告セラレタル爲海軍側ニテモ出動準備ヲ爲シタルモ後刻其既ニ支那側ニ賣渡シ濟ノモノナルコト判明シ又支那商自身ニテ處置スヘキ旨申出テモアリ此ノ貨物ニ對シテハ我方ハ直接關與セサルコトナレリ

外務省

8 1.1.1.0-7 1755 0401

ニ當地東亞製麻會社カ大連青島等へ船積ノ爲舢舨ニテ蘇州河ヲ下シ居リタル同社製品麻袋五十俵麻糸五十俵麻布十俵（價格合計約一萬三千兩）十五日午後七時頃租界内ト覺シキ蘇州河中ニテ反日會ノ爲ニ抑留セラレタル旨届出テアリ（租界内ニテモ水上ノ行政權ハ中國側ニアリ）會社ヨリ直接ノ請求ニ依リ陸戰隊出動シ貨物ノ所在ヲ探シタルモ發見セスシテ空シク引揚ケタルカ翌十六日朝ニ至リ右貨物ハ既ニ反日會ノ爲陸揚ケセラレタルコト判明シタリ返還方交渉中
北平、奉天、天津、青島、濟南、南京、漢口、廣東へ轉電シ支へ轉報セリ

外務省

8 1.1.1.0-7 1756 0402

六八 一六

一四〇〇

無線

其電書

(三四九)

在上海北岡武官

外務省

次官 (馬要一、二並連司令官)
次長 (佐領長官、在支各地武官)

第八五番電

上海於今其後、反日情勢、如左、如左

- 一、總領事館より市政府及公安局へ、累次、嚴重ナル抗議、對シテハ其、都度取締、方ヲ嚴命シ居、モ安莫効、變テラズシテ反日會員ト稱ス、不逞ノ徒、強盜的所為、今以テ完全ニ終熄セズ
- 二、最近我海軍、於テ執リタシ措置ニ對シ反日會員、於テハ、自顛倒ノ宣傳ヲ行ヒ漢字紙亦日々逆宣傳的記事ヲ掲ゲ居リ之ニ對シテハ總領事館より市政府ニ對シ警告ヲ發シテ捏造

8 1.1.1.0-7 1757

記事ノ嚴重ナル取締ヲ要求方手配中

三、但シ一般情況トシテハ今トコロ一般民衆ノ氣勢必スシモ揚リ居、及表面的ニハ平靜ナリ

十六日

8 1.1.1.0-7 1758